

実質GDP 年1.2%減

4期ぶりマイナス成長

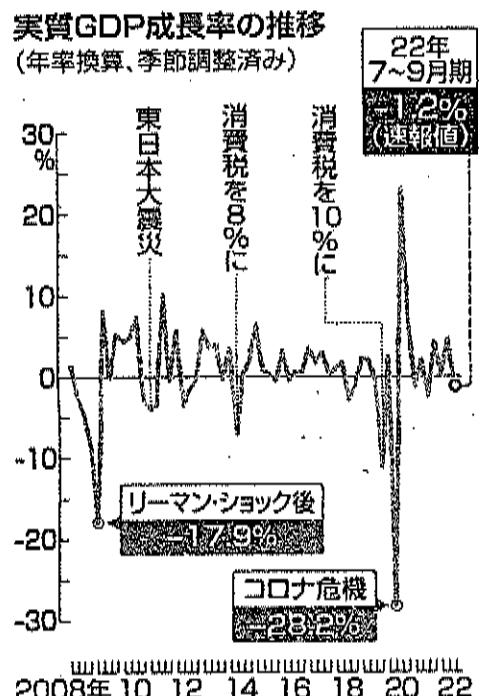
海外依存の危うさ示す

内閣府が15日発表した2022年7~9月期の国内総生産(GDP、季節調整済み)速報値は、物価変動の影響を除いた実質で前期比0・3%減、この成長が1年続いた場合の年率換算で1・2%の減少でした。プラス成長との予測が覆され、21年7~9月期以来4四半期ぶりのマイナス成長となりました。▼関連6面

マイナス成長となつた主因は輸入の増加です。輸出が1・9%増にとどまる一方、輸入が5・2%と大幅に増加しました。ロシアの東日本大震災、消費税を10%にリーマンショック後、コロナ危機などによる超金融緩和とともにもう円安によって、海外への所得流出が続いていることになります。エネルギー・食料

を外国に大きく依存し続けている経済の危うさが改めて示されました。

内需を中心とする個人消費は前期比0・3%増と低迷しました。新型コロナウイルス感染「第7波」や物価高騰が個人消費を抑制しました。消費の弱さは、日本経済の構造的弱点となつています。



ウクライナ侵略などを背景にしたエネルギー・食糧価格の高騰、政府・日銀による超金融緩和とともにもう円安によって、海外への所得流出が続いていることになります。エネルギー・食料を外国に大きく依存し続けている経済の危うさが改めて示されました。

物価変動の影響を反映

し、生活実感に近づきGDPは前期比0・5%減、

年率2・0%減と4期ぶりのマイナスでした。

雇用者報酬は、名目では0・3%増だったものの、

実質では0・8%のマイナスでした。物価の上昇に賃金の上昇が追い付いていない実態が反映しました。